

第 21 回 CO2 環境対策技術研究会

日時：2014 年 10 月 23 日（木）14:30～16:30

場所：東京臨海リサイクルパワー（株）

第 21 回研究会は、江東区青海の東京臨海リサイクルパワー(株)の施設を見学した。東京臨海リサイクルパワーは前回訪問した有明興業等の産業廃棄物の処理業者から有料で産業廃棄物を受け入れ、焼却処理している。この焼却処理の中で金属やスラグを回収して有価物として売却している。また廃熱を利用して蒸気タービンを回して発電し、電気を東電に売却している。更に感染性医療廃棄物を受け入れ、焼却処理するという特殊な廃棄物を扱っている。

施設見学の前に工場の概要について説明していただき、見学後に質問と意見交換を行った。交流会は新橋駅周辺の「十米烏森口駅前店」で行った。

見学会・講演会への参加者は 17 名、交流会参加者は 14 名であった。

スケジュールと内容は以下のとおりである。

1. 集合：2014 年 10 月 23 日（木）14 時 00 分ゆりかもめテレコムセンター駅改札口
2. 施設の説明と見学：14：30～16：00
会議室でビデオ等により施設の概要の説明を受けた後、2 班に分かれて、東京臨海リサイクルパワーの焼却処理の説明と屋上からの工場の全景、管理センターの状況等を見学した。
3. 質問・意見交換：16：00～16：30 3階会議室
説明と意見交換 東京臨海リサイクルパワー(株) 営業部長 小園 治様
4. 交流会：17：00～19：00 「十米烏森口駅前店」

1. 施設の見学：14：30～16：00

- 1) 3 階の会議室で、ビデオで工場の概要を見せて頂いた後に、小園営業部長から産業廃棄物処理フローと感染性医療廃棄物の処理について説明があった。

見学は 2 班に別れ、別ルートで見せて頂いた。

3 階会議室内の説明を聞く参加者



2) 東京臨海リサイクルパワー(株)の概要

(1)2006(H18)年 8 月に創業

(2)国の都市再生プロジェクトの一環として、東京臨海部において廃棄物処理・リサイクル施設を運営するスーパーエコタウン事業の公募に参加して、ガス化溶融等発電施設の事業者として選定された。

(3)可燃性廃棄物処理能力は 275 t / 台 × 2 台 = 550 t

(4)感染性医療廃棄物処理能力 50 t / 台 × 2 台 = 100 t

1 台をバックアップとして使い、常時 50 t の処理を行っている。

(5)発電は、最大 23,000 kW の発電能力がある。

(6)スラグの量は廃棄物量の 12%程度 最近は 9%に低下している。

スラグは土木資材会社に売却している。

(7)廃棄物の受入れ料金

① 可燃性廃棄物 30 円 / k g

② 感染性医療廃棄物 50~70 円 / k g

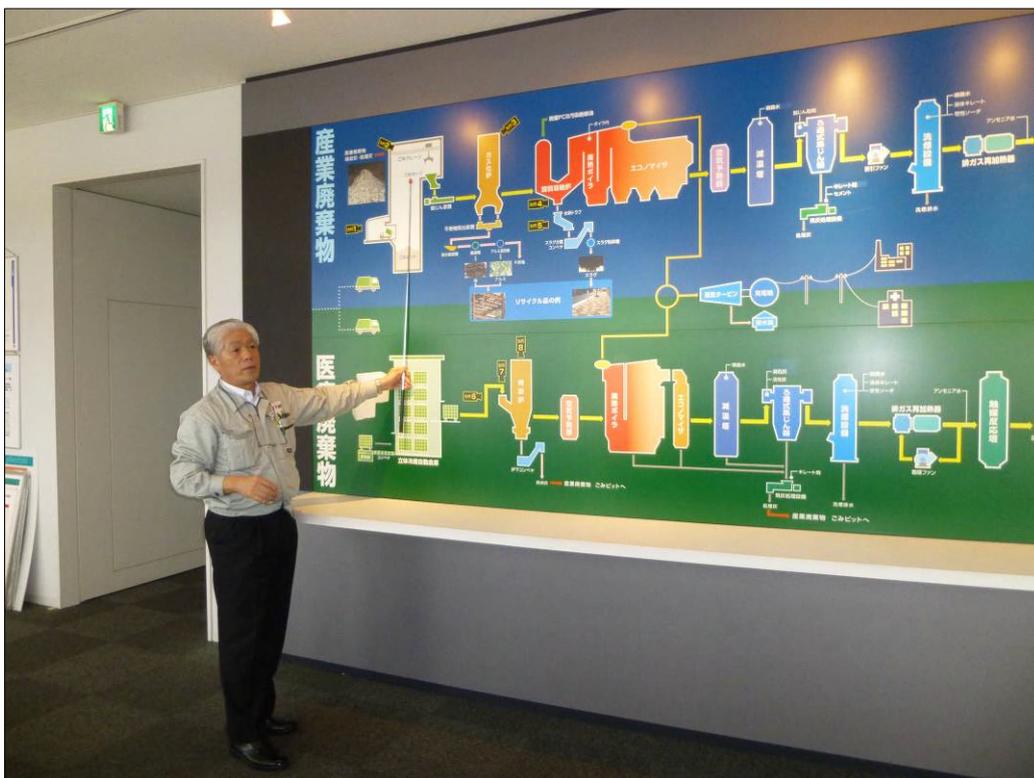
(8)環境対策

① 完全燃焼させることに重点を置いている。排ガスは集塵機と洗浄塔を通して煙突から排出している。

② CO₂ はそのまま排出しているが電気として回収しているのでサーマルリサイクルに貢献している。

可燃性廃棄物と感染性医療廃棄物の焼却について説明する小園部長

この部屋には関連する資材が展示されていた。



屋上から見た焼却施設



屋上からゲートブリッジが見える



建屋内の管理センターの内部



建屋内の焼却施設を窓越しに見る



3. 交流会：17:00～19:00 「十米烏森口駅前店」

- 1) 参加者は、14名。
- 2) テーブルは4つに分かれたが、個室で会場の雰囲気は良く、2時間たっぷり懇談できて、有意義な交流会であった。
- 3) 最後はテーブルごとに同期が集まることになったが、好評だった。



S43 年応用化学科卒の皆さん



S35 年応用化学科卒の皆さん



以上
(文責：内藤 堅一)